

# 鴻島

## ニュース

### 総会報告

ごあいさつ

自治会長

長瀬 直

陽春のさわやかな季節となり会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。4月11日の第7回総会におきましては、お慶び申し上げます。4月11日の第7回総会におきましては、お慶び申し上げます。4月11日の第7回総会におきましては、お慶び申し上げます。

### 会計報告 削除

第7号  
— 1998 —  
中央地区  
自治会  
広報委員会

(0869881756)

事務局迄

4月11日、鴻島分校で開催しました。出席者及び委任状を頂いた方で118名(72.4%)、バガキを163枚送付総会は成立しましたが、40名の方から回答を頂いておりません。自治会にご協力をお願いいたします。総会は議長に会長の長瀬氏を選出して始まりました。1年間の行事報告、会計報告(別表)がありました。役員改選で、嶋忠弘氏、東海光治氏が辞退され、現役員の17名で(新しい役員に名乗り出て頂けなく)10年度も再任されました。

続いて、会計案(別表)が提示されました。今期には草刈りを2回(初夏、秋)と溝掃除を1回行います。再々度放置車を処分します。邪魔な車、不要な車があればご連絡下さい。

道路補修に100万計上しておりますが、本村地区、中央地区の補修に満額使用できません。修理箇所があれば連絡をください。なければ残金を積立に上乘せ致します。

行政の要望により、新しく区分割りをしました。船隠地区(桜並木通りで上と下で)中央地区、船着場の本村地区、亀の浦地区(山の頂上で分けて)、東地区(島の東方面)、桃の木地区の6地区の名称で番号を付けました。会員さんの別荘には、地区とNo(ナンバー)を表記しました。(氏名と場所が分かりにくいので)中央、大林両地区が町・消防に提出。役員も各地区ごとに舟隠地区3人、中央地区6人、亀の浦地区3人、東地区4人、本村地区1人とあります。御用があれば申し

### 会計予算案

平成10年度

### 会計報告 削除

つけ下さい。

役員No

船隠	24・25・50
中央	3・18・20・31
亀の浦	45・47
東	1・5・28
本村	1・7・20・31

### 事務局よりお知らせ

○3月の初旬に溝掃除を行いました。今回は主に側溝につまった汚泥を除き、水の通りをよくしました。初めての掃除で範囲が広く全部しきれないところもありましたが、90%は出来ました。また来季も行いますのでだんだんきれいになると思います。

○好評だった底引き漁船に乗る時期を失い、期待に添えない申し訳ありません。今期は間違いないと実施いたします。(9月)個人で乗船される場合は御世話します。10人で70000円です。(15人程乗れますが追加料金が必要)

### 新聞だより

①左表の様に、海上タクシー、フェリーの料金が改正されました。私たちに痛い値上げです。自治会としても対策はなく、また業者さんには辛い選択か

●海上タクシー料金(日生～日生諸島まで)

鴻島	本村	5名様まで4,000円	1人増500円
	亀の浦	"	"
	舟隠し	"	"
	日後	5名様まで4,500円	1人増500円
	桃の木	"	"
鹿久居島	現寺	5名様まで4,000円	1人増500円
	又ヶ	"	"
	千	5名様まで5,000円	1人増600円
	頭島	5名様まで4,500円	1人増500円
	大多府島	5名様まで5,000円	1人増600円
	鶴島	5名様まで5,500円	1人増700円

●フェリー料金(日生～各日生諸島まで)

種類	台数	現寺・本村・頭島	亀の浦・大多府・千軒
軽四・単車	1台の場合	往復 6,000円	往復 7,000円
2t未満のダンプ及び乗用車	"	" 7,000円	" 9,000円
(亀の浦)	"	"	" 8,000円
小型	2tダンプ	往復 8,000円	" 9,000円
2tロング・ユニック・平ボテ	"	" 8,500円	" 9,500円
3t～4tのダンプ・生コン車・ポンプ車	"	" 10,000円	" 12,000円
4t以上のロングボテ・ユニック・平ボテ	"	" 13,000円	" 14,000円
大型	11tダンプ・生コン車・平ボテ・回送車	" 16,000円	" 17,000円
重機	超小型	片道 4,000円	片道 5,000円
	小型	" 5,000円	" 6,000円
	中型	" 8,000円	" 9,000円
	大型	" 9,000円	" 10,000円

・車一台につき5名様までを基本料金とし、1人増す毎に500円増しとする。  
・単車と車を同時乗船する場合、車の料金プラス単車一台につき1,000円増しとする。  
・業者同時乗船の場合、各車1,000円引きとする。

とも思います。(最近はお利用者が少なく、経営上やむなき事です。)

### ②同好会の案内

- 土いじりの会 (世話人 森田 孝)
- ゴルフの会 (世話人 長瀬 直)
- 魚釣りの会 (世話人 樽家紀之)

○土いじり同好会が、備前焼泰山窯で1回目の作品を作りました。2月の23日に焼き上がりしました。湯飲み、花瓶、ビールジョッキ、小鉢等、思い思いの作品を創り、焼き上がりお待ち、60日ほどが長く感じました。売れる作品はないかもしれません。家庭では充分使えます。窯元では指導もしてくれず。手は泥で汚れますが、楽しい一日でした。今期も実施する予定です。会費3500円(窯元により多少の差があります)が粘土代です。多くの方々の参加を待っております。希望者は連絡下さい。

○ゴルフ同好会 総会の翌日に備前ゴルフクラブで開催しました。皆さんのハンデはダブルペリアで、皆でワイワイイガヤガヤと楽しくまわりました。参加者が少なく残念でした。次回は多くの参加を待ちしています。ゴルフは競技ですが私たちはプロではありません。下手も上手もありません。親睦です。プレーの報告は次の通りです。

1998.04.12(日)はれ 於:備前ゴルフクラブ

競技方法:ダブルペリア

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	小松 康博	46	41	87	13.2	73.8
準優勝	長瀬 直	48	45	93	18.0	75.0
3	浅島 敏男	51	40	91	13.2	77.8
4	青木 武	56	54	110	28.8	81.2
5	森田 孝	51	56	107	25.2	81.8
6	平田 文夫	53	57	110	26.4	83.6
7	森 啓充	59	59	118	32.4	85.6
8	桜井 康雄	66	68	134	36.0	98.0

次回参加希望の方、連絡下さい。  
063762470

0794350466 森田 孝 (会社)

063762470 長瀬 直 (会社)

### ★会員でない人に

自治会活動は会員の負担で行われています。別荘地も10年たち道路の補修や溝掃除も会費でまかっています。しかし会員外の人は何も負担していません。道路や溝や車の撤去や水道の破損も全部会員だけの負担なのです。折角手に入れた別荘も公共性は高いのです。皆様相応の負担をするのが社会のルールだと思います。島を利用するにはぜひ、会員になって頂きたいと思うのですが...

### ★車両放置は絶対にやめて下さい。

今季に又、車両の撤去を考えています。だんだん増えて通行の邪魔をしています。撤去費用を自治会で負担していただきます。中央地区で約40軒の人が会員ではありません。皆様の隣近所で会員外の人が車の使用をしている時、その後放置がないかよく注視して下さい。放置がわかれば自治会に注意したいと思えます。

### ★火事の予防のお願い

鴻島では過去10年間の間に4回の火事が起こっています。特に強風が急に吹く事もあり、ゴミや落葉等のたき火は絶対しない様に気を付けて下さい。お互いに注意しましょう。

### 役員名簿(平成10年度)

- 会長 長瀬 直
- 会計 青野正勝
- 監査 寺浦 格・樽家紀之 (事務局) 平田文夫
- (理事) 12人
- 荻野清志 森田昌夫・森田孝
- 浅島俊男 米田稔・桑原高己
- 三田村敏行 丹野嘉子・吉田とし子・岩坂春二 飯田龍平
- 森啓充 (順不動)

# 加子浦歴史文化館が完成

出身作家の業績展示  
漁具などの郷土資料も

日生の歴史と文化を伝える加子浦歴史文化館（目賀道明館長）が昨年十月二十八日、日生町日生に完成した。同町出身の作家里村欣三らの著書、原稿、写真、作品を展示した文芸館、同町からの出土品、漁具などを集めた資料館の二つからなる。完工式には里村欣三の遺族や行政関係者ら約百人が出席。田原隆雄町長が「日生の歴史と文化を知る展示品が多く集まった。町民をはじめ、多くの方が日生を知り愛してほしい」とあいさつ、テープカットした。

文芸館は鉄筋コンクリート二階（約三百平方メートル）

の蔵風の造り。作家里村欣三（一九〇二～一九四五）の著書「第二の人生」「河の民」や雑誌「改造」「文芸戦線」、児童文学者牧野台誓（二八九四～一九六七）の著書「無敵三銃士」「長靴の三銃士」や原稿、南画家久保田耕民（二八九〇～一九六九）の作品

「弥勒の滝」「冬景山水」などが展示され、郷土が生んだ文化人の業績がわかる。また現在活躍している作曲家岡千秋さん（鴻島出身）の「浪速花しぐれ」の音符の写し、レコードなどを並べたコーナーもある。

江戸時代の網元・吉田家を移築した資料館は木造二階（約二七〇平方メートル）。タコつば、ランプ、漁網などの漁具、絵図が展示され、お茶会などが開かれる和室もある。

港の入り口にある石組みの防波堤は元禄（げんろく）時代に造られた。薩摩藩主・島津公が参勤交代の途中、台風にあい、この港に避難した。この時の話を聞いた備前藩主池田綱政公は、この島の重要

# ふるさと風景

## 一三百年間舟を見守る 大多府島燈籠堂

大小十三の島々がある日生諸島。その最も沖にあり、瀬戸内海上交通のかなめになっているのが、大多府島。周囲五キロ、人口約六百。島民の多くは漁業など海とともに生きていく。

港の近くには六角大井戸、飲料水を供給するために掘られたもので、枯れずに役立っている。

坂道を上ると大多府小。今の春の入学生はなく、八人が仲良く学んでいる。

その先に燈籠堂（とうろうどう）があった。防波堤と時を同じく約三百年前、沖行く船のため、灯をともした。現在のは昭和六十一年、復元された。先祖代々、海に生きてきた島の人々の心意気を示すように板張り、かわらぶきの堂々たる構えだ。

性を認識し、津田永忠に命じ、防波堤や港の施設を造らせた。加子（かこ）と呼ばれる操船技術にたけた水夫がおり、その番所も置いた。

港の近くには六角大井戸、飲料水を供給するために掘られたもので、枯れずに役立っている。

坂道を上ると大多府小。今の春の入学生はなく、八人が仲良く学んでいる。

その先に燈籠堂（とうろうどう）があった。防波堤と時を同じく約三百年前、沖行く船のため、灯をともした。現在のは昭和六十一年、復元された。先祖代々、海に生きてきた島の人々の心意気を示すように板張り、かわらぶきの堂々たる構えだ。

# 新 日生交番が完成、開所

一港町イメージ 船型屋根

港町・日生のイメージに合うようにと船をかたどって新しい備前署日生交番所（日生町寒河）が完成。十四日、関係者を集めて開所式が行われた。

式には川本備前署長、平崎東備地方振興局長、田原日生町長ら約二十人が出席。四人の勤務員を代表して三村宏一警部補が「感激と喜びを胸に住民に親しまれる交番として



船をイメージして造られた新しい日生交番

明るく住み良い町づくりに貢献したい」と述べた。

新しい交番は、日生町役場前にあった旧交番（日生町日生）が築後二十八年余りたち老朽化したことから立て替えられた物で、約三百メートル東のJR日生駅南に移転した。敷地二百五十四平方メートルに鉄筋コンクリート平屋六十九平方メートルの新交番は、屋根部分が船をイメージしたユニークな形で、内部には障害者用トイレを設けて障害者にも優しい建物にした。OA室、応接室などがある。総工費は約二千九百万円。

した。若いころの働き過ぎがこたえたのか、晩年は背中が丸くなり、子守歌を聞いた背中で随分と小さくなったなあと感じていました。

亡くなったおふくろを寝かせた時、背筋が伸びて「おふくろってこんなに大きかったんだ」と思うと、涙が止まりませんでした。

「好子さんの亡くなった翌五十五年、岡さん作曲、五木ひろし歌の「ふたりの夜明け」が大ヒット。岡さんはその後も「浪花恋しぐれ」「長良川花恋しぐれ」などヒット曲を生み出す。

# '98サンバーフェスティバル

〈日生水産業祭〉 雨天決行  
◆とき 6月7日(日) 午前9時30分～午後3時  
式典午前9時～午前9時30分  
◆ところ 日生港第1工区広場(もやい茶屋前)

## こころあたたまる風景に出会う

和気町藤野

### 藤公園



その昔、その名の通りこの藤野の地は藤が咲き乱れる原野であったと伝えられています。

この地で誕生した和気清麻呂公の生誕1250年を記念して藤公園を整備しました。

この公園は7,000㎡の敷地に幅7m総延長約400m棚面積3,000㎡の藤棚を配置し、北は北海道から南は九州鹿児島まで全国四十六都道府県の著名な藤約100種類を収集し整備した「日本一の藤公園」です。



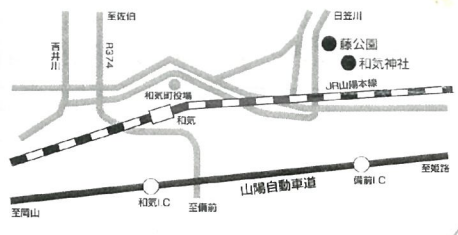
芳嵐園に立つ清麻呂公の像(高さ4.63m) 美術界の巨匠だった故朝倉文夫氏の作。

### 和気神社



当神社は和気清麻呂公と姉の広虫姫を祀っています。前を流れる日笠川のせせらぎや閑静な鎮守の森からも、陰謀渦巻く奈良の都で誠実を貫いた清麻呂公の人柄がしのばれます。

また、神護景雲三年（七六九年）に大隅国（今の鹿児島県）に追いやられることになった清麻呂公を、宇佐八幡まで御案内したとされる猪は清麻呂公の隨身、また神使として崇められ、この由緒により、当社では狛犬がわりに雌雄一対の霊猪を安置しています。



# 故郷の話 母のこと

日生町出身 作曲家 岡千秋さん(47)

「好子さんの亡くなった翌五十五年、岡さん作曲、五木ひろし歌の「ふたりの夜明け」が大ヒット。岡さんはその後も「浪花恋しぐれ」「長良川花恋しぐれ」などヒット曲を生み出す。

せ、家の柱にくくりつけられていました。

それでも畑仕事が終わるといつも背中におぶって子守歌を聞かせてくれる優しいおふくろでした。おふくろの背中から見た瀬戸内の美しい夕日は今も記憶に残っています。

「母・好子さんは昭和五十四年八月、六十三歳で亡くなりました。岡さんが作曲家として名を成し始めたころだ」

おふくろは子供たちを食べさせていくため、タバコ栽培やレンガ会社勤務などで朝早くから夜遅くまで働きつづめて

五木さんのような大歌手の作品を書いたことはそれまでありませんでした。

「やっとな親孝行できる」と思うとうれしくて、おふくろに「メジャーになれるかもしれない」と電話すると「良かったな。」

おか・ちあき 日生中を卒業後、演歌歌手を目指して大阪へ。メッキ工場働きながら歌謡教室に通う。17歳で上京し、キャバレーのボーイ、ラーメン屋の出前持ちなどしながら歌を勉強。昭和45年、作曲家に転身した。都はるみとのデュエット曲「浪花恋しぐれ」は58年、日本レコード大賞特別賞を受賞した。日本作曲家協会理事。東京都内で妻、義母、1男1女の5人暮らし。東京都文京区湯島3ノ28ノ1ノ405、「オフィス・岡」。